

私の“おすすめ”コーナー

『SWEET SIXTEEN』



2002年/イギリス・ドイツ・スペイン/ケン・ローチ監督作品

DVD

発売元:アミューズソフトエンタテインメント株式会社

販売元:アミューズソフトエンタテインメント株式会社

税込価格:3990円

(C)Sixteen Films Ltd, Road Movies Filmproduktion GmbH and Tornasol Film S. A. and Alta Films S. A. MM!!

イギリスの誠実な映画監督、ケン・ローチの作品である。彼は、労働者や社会の底辺にいる人々の過酷な現実を、きわめてリアルにえがいてきた。彼/彼女らの行動については厳しくえがかれているが、その底には彼/彼女らに対する優しいまなざしがある。それゆえか、その底にある社会の問題を深く考えさせる。本作品も同様である。

スコットランドのある町に住む、リアム。周りにはドラッグが蔓延している。ブラブラしているが、ドラッグには手を出さない。母は刑務所にいる。リアムの16歳の誕生日前日に母は出所する予定。間もなくだ。リアムは、素敵なコテージをみつけた。母と住むために購入したい。リアムは“普通の家族”の生活を手に入れたいのだ。でもお金は？。ある日ドラッグを盗みそれを売って購入費用を得る。そのことをドラッグの元締め知られてしまい、売人に組み込まれてしまう。せっかく買った家も焼かれ

てしまった。リアムは元締めから家を借りる。そこに出所した母を迎える。「どうだ、素敵な家だろう。これで幸せになれるね」と、その夜リアムは浮かれる。だが、翌朝母は恋人の家に行ってしまう。母を取り戻そうとしたとき、馬鹿にされた母の恋人を刺してしまう。リアムは浜辺へ。そこで映画は終わる。

リアムはこれまで何回も母親に裏切られてきたのだろう。それでも母親を思う心情が画面から飛び出してきそうなほど。その熱い思いがカラ回りし、やることもカラ回り。そのため、どんどん悪の道へ入りこんでしまう。母とは距離をおいて自立していこうとする姉と対比されている。

ヒリヒリする映画。いつまでも尾を引く映画である。

ラスト、姉からの「リアム、警察が捜しているわ。どうしたの。あなたを愛している」という電話に僅かな光があるが、リアムはどうするのだろう、どうなるのだろう。

「リアムに希望に満ちた人生が訪れることを願う」と書いてあった感想があったが、リアムを演じたマーティン・コムストンは、オムニバス映画『明日へのチケット』(2005年)第3話(監督ケン・ローチ)に登場。とてもやさしい気分にしてくれる青年に扮している。『SWEET SIXTEEN』を思い出して、「リアム、良かったね」と言ってしまうようになった。『明日へのチケット』もDVD化(2007年 販売元ジェネオンエンタテインメント)されている。こちらもお勧め。

(石井小夜子)